

今年は環境的には大変なことも多いですが、それはみんな同じ。結局最後までしっかりと取り組むしかない。松永 弘文

今までコツコツ勉強してきたことを入試問題に思い切りぶつけてきてください！応援しています！(富田 宏美)

いよいよ本番ですね。今まで積み重ねてきたこと、たくさんありますよね。こうなりたいと思う未来に向かって、今できることを最大限に取り組んでいきましょう！残りの時間、気を引き締めて一緒に頑張ってくださいね。(比嘉 あかね)

気づくと一年前とは違う景色を見ている。振り返ると一年前とは違う場所に立っている。弱さも知った。臆病にもなった。上等等だ。私たちはまだまだ先へ行けるみたいだ。(松尾 裕史)

受験生になったとき、きみは、どういふ結果を望んだか？もう一度思い出せ。毎日思い出せ。三月をどういふ気持ちで迎えるのか？よく考えろ。毎日考えろ。そして、残された日々を一瞬の無駄もなく大事に過ごせ。(小林 健輔)

受験生でいられるのも残りあとわずかです。だからこそ今の瞬間を大切にしてください。受験生でいられることの感謝を忘れずに、一緒に最後まで駆け抜けていこう。(櫻村 公太)

寝言でイデオロムが出てくるくらい、シャープンの先から煙が出るくらいやっていると？(五日市 浩)

入試まではあとわずかとなりましたが、やることは今までと大きく変わりません。必要以上に焦らず気負わず、地道な努力を積み重ねてください。そうすることが、みんなが本番で力を発揮するための助けになるはずです。応援しています！(神山 仁)

受験当日は脳が燃えてしまします。チョコリートを持参し、休み時間に糖分を補給しましょう。効果絶大ですよ。(澤田 秀樹)

### 受験生へのメッセージ



問題を解く前に問題全体を見渡そう。どの問題から解きやすそうか目安をつけてから解こう。心が落ち着かなくなってきたときは身近な人のこと、そして我々創学舎の講師陣の顔を思い浮かべよう。あとは思い切って突き進むだけ。がんばれ！(青木 隆一)

体調にはくれぐれも気をつけて。100%の状態でも挑みましよう。(上野 真宏)

いま出来ることを全力で。地味で面倒臭いことを誠実に。最善の準備をして本番に臨もう！(高寺 大介)

最後に信じるのは「自分のやってきた事」です。一日一日を大切に、自信を持って受験に臨んでください。(梅木 健二)

受験は将来の可能性を広げるチャンスです。まだまだ時間があります。焦らずに丁寧に力をつけていきましょう。応援しています。(岡本 武)

今日まで受験勉強本当にお疲れさまでした。やることはやったと思うので、皆さんが己を信じて全力を出せることをお祈り申し上げます。(小澤 浩太)

【苦手】なことは逃げても結局やらねばならない。だから逃げるのをやめて、振り返って向き合おうしかないよ。【やってみるか】と自分を信じて苦しいけれど向き合ってみよう。そして【信じられる自分】になるために正しい努力を積み重ねて！(関野 光希子)

山高み 雲井に見ゆる 桜花 心のゆきて 折らぬ日よなき 夙河内躬恒(古今和歌集より)

残された時間でできること、まだまだたくさんあるはず。限りのある時間を無駄にしないように。心配事があれば教室の先生たちとすべく相談すること。(上田 悠介)

家族への感謝の気持ち、家族との日々の時間を大切に。応援しています。(小野 桃花)

受験は、自分で選んだ新たな道への挑戦である。その道に向かって突き進んでいきましょう。そして、受験を終えたとき「ああ、やり切ったな」と言えるように、直前まで努力を怠らずに頑張ろう！(佐々木 光介)

受験まで残りわずか。ここでの頑張りが本番での自信に繋がります。試験中、解答に迷いたくなかったら、今、一生懸命に勉強に取り組もう。(矢上 有一)

今まで懸命に努力してきた自分こそ、本番の心の支えとなります。自らを信じて、合格を勝ち取ってきてください。良い報告を待っています！(津田 慈)

入試本番で不安な自分の支えになるのは、「懸命に頑張っている今現在の自分」です。入試本番で後悔しないよう、今を精一杯頑張れ!!(長坂 浩之)

皆さんが本番でこれまでの自分の努力を信じ、強くたくましく折れない気持ちで向かえるように、そして今の頑張りを最大限発揮できるように祈っています。(隅 純音)

自分に自信を持ち他人と比較することなく目の前の問題に集中せよ。計画に沿って学び続けるのだ。入試当日は最後の科目が終わるまで絶対に諦めるな。(大場 健司)

いよいよ受験本番！前日はしっかり寝て、脳を100%フル回転させられる状態にしよう！あとは己を信じて全力を尽くすのみ!!(亀高 樹弥)

今まで積み上げてきた全てを発揮する瞬間が来ましたね。自分の努力は自分が一番知っているはず。いつも通りの自分で臨みましょう。(平野 陽大)

受験の選択肢に「合格」と「不合格」の二択はありません。「合格」か「諦める」かの二択です。諦めない心があれば、あなたを合格に導きます。(村田 寛之)

入試までに残された時間はまだまだ十分にあります。最後の最後まであきらめずに正しい努力をしてください。(村上 静馬)

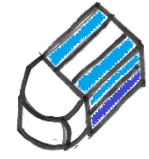
結果はどうあれ、最善と思われる努力をしなければ今後の人生が開けない。それは人間の宿命だ。(柳 善一)

# 『検定試験』を受けさせるか？

創学舎は「実用英語技能検定試験」「実用算数・数学技能検定試験」「日本漢字能力検定試験」の準会場指定を受けており、一学期に一回右記検定試験を実施しています。他にも世の中には種々多様な検定試験があります。

さて、その検定試験はいつ何を受けさせたら良いのでしょうか。そもそも検定試験を受けさせる必要があるのでしょうか。保護者の皆様にとって、時々思い浮かぶ疑問ではないでしょうか。「いつ」「何を」について明確な答えはありません。ただ、「早いうちから少しずつ」「身近な検定から」ということは言えます。

今回は小中学生の保護者の皆様を意識して、そして敢えて「検定を受けさせるからには」ということで注意点を中心に書きます。「検定を受けるメリット」については創学舎ホームページ内のブログに掲載しました。左のQRコードから入り、併せてご覧ください。



## ① 『本人任せ』も『押し付け』もだめ。

「受けるのは本人だから」「受検するかどうかは本人に任せる」はいけません。小中学生であるほど、楽をしたいから検定なんて……となるのがオチです。一方、親が無言を言わず、子どものスケジュールや状況を見無視して受検を押し付けるのもいけません。反発を買い、無用な抵抗感を植え付けるだけです。

「今、これだけの力があるのだからやってみようよ。」「この時期は学校もそれほどイベントがなく、落ち着いている時期だからやってみようよ。」「今の学年のうちにはこれだけのものを学習して、検定を受けてみようよ。」など、上手に話してみても、徐々に検定を意識させていく、受けてみようかなという雰囲気を作り出していきけるかが大切です。「うちの子、親の言うことなんて……」という方は、教室の講師陣からも本人にアドバイスや声かけをするので、遠慮無く言ってください。

さらに、「受けるのは本人、勉強するのも本人」といつて、勉強もスケジュール管理も本人任せというのはいけません。受検をさせる以上は、保護者側でもしっかりと「勉強スケジュール」「学校や塾の宿題と検定の勉強とのバランス」「学校の定期テスト日程や部活の日程との兼ね合い」などを把握し、ときにはアドバイスを、ときには進捗状況を確認する必要があります。(無論、つきつきりで勉強を見る必要なんてありません。)

② 親子共々、情報・準備不足にならないようにする。  
検定受検に申し込んだのに、いつどこで検定試験を受けるのか、当日までにどんな準備をするべきかを知らないで本番当日を迎えるなんて方も時々見かけます。

「まず相手を知る」というと大げさですが、情報(検定概要や日時と会場、出題範囲など)を知らなければ準備も対応もできません。申し込んだからには、きちんと親子双方で基本的な情報を把握し、当日に向けてしっかりと準備を進めるべきです。

準備不足、受検に備えてだけでなく学習についても同様です。準備をきちんとせずにチャレンジだけさせて、不合格続き……となると、本人のやる気はどんどん失せてしまします。親子共々、情報は逐一確認をし、万全な準備の下で受検をしてほしいものです。

## ③ 優先順位を共有する。

検定の勉強のせいで他のことが一切できなくなるというのはいけません。その日優先させることは何か、学校の宿題、塾の宿題で先にやっておくべきことは何かなど、優先順位を共有しておくことも大事です。

## ④ 自分に合ったレベルからスタートする。

周囲の情報や状況に惑わされ、必要以上に上位の級を受けるという方も散見されますが、好ましいものではありません。検定はあくまでも今の自分に合ったレベルで受けるべきです。とはいえ、今の実力より上の級を受けてみたいとお考えの方も多いため、その際は遠慮なく教室の講師陣に受けたい級が妥当かどうかなどを聞いてみてください。

検定試験は必修というものではありませんが、上手く活用することでお子様の成長に確実に繋がるものです。さらに、創学舎が掲げる「自己学習能力の育成」にも繋がるものです。お子様の成長の一助としても、ぜひ検定試験を積極的に活用してみてください。その際に今回の記事がご参考になれば幸いです。(青木)

## ★大学受験・高校受験の当日の注意★

- ① 腕時計を忘れるな。
- ② 鉛筆、消しゴムはたくさん持っていけ。  
(中学生は定規・コンパスを忘れるな！)
- ③ トイレは早めに行く。  
テスト直前に行つて混んでいたら？ あきらめて我慢するのは最悪です。テスト開始に多少遅れても済ませるべき。我慢している状態では解けません。また、大学入試でトイレレットペーパーがなかったという事態がありました。ポケットティッシュは多めにポケットに入れておくこと。

④ あがってしまったら、必ず作業する。  
言葉で自分を落ち着かせようとしてもムリ。手をさすったり、体操したり、手をふったり、深呼吸

吸をしたり、文房具の手入れをしたり。作業に集中することで落ち着きます。

⑤ はたつたりに負けない。マイミュージックを聴こう。  
「できたぞ。」「やさしかったよな。」「おれ満点かも。」と大きな声で周りを威圧する人がいます。無視。流されてはいけません。マイミュージックを聴いて、気分を変えよう。

⑥ 傾向が変わったら大チャンス。  
みんなビビります。当然、あなたもビビります。大事なものは、その先。みんなビビって頭の中が真っ白のはず。だから、「みんな点は伸びないぞ。自分分は落ち着いて、とれる所を確実に解いて、合格に近づこう。」と考えるのです。おぼえておいてね。

⑦ 保冷剤は役に立ちます。チョコも必需品。  
保冷剤は頭がポーツとなったとき、首やほっぺにあてるとすつきりします。チョコを食べてエネルギー補給。

⑧ 三教科あれば一教科、五教科あれば一教科や二教科失敗するのは当たり前。  
● 一教科失敗↓引きずって失敗×  
● 一教科失敗↓気持を整えていつも通り○  
どちらがいいか分かりますよね。失敗したことをひきずらないで、他の教科をきちんとやれば合格に近づきます。

⑨ 昼食後、眠くなる人は、食べるものを工夫する。  
給食のあとの五時間目に眠くなる人は、テストのときも同じことになります。昼食をゼリー・プリン・みかんなどにかえると、かなりよくなります。これも模試のときから練習すること。

⑩ 当日持参するテキスト・問題集には付箋を貼る。  
本を持っていても、どこを見るか決めていないと無駄です。心配なところが次々に出てくるだけ。直前にやる問題には付箋を貼っておきます。短時間で目を通せます。

※ 残された模試の回数は少ないと思いますが、模試のときも必ず右記のことを読んで、覚え込んでいくこと。本番に備えての練習です。  
(小林)